



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

トピックス ちがさき丸ごと博物館友の会主催ミニ講座が開催されました！

エメロードにある茅ヶ崎ショッピングセンター1階の「多目的ふれあい広場」をお借りして、平成28年11月25日(金)から2月27日(月)まで「丸ごと101スペシャル展示」を開催していることは、季刊誌第29号、第30号でご紹介しました。茅ヶ崎のさまざまな都市資源の写真を展示したり、スタンプラリーのポイントとして来訪者の交流の場になったりしました。



2月中は、茅ヶ崎ショッピングセンターのご協力のもと、多目的ふれあい広場隣のスペースで「スペシャル展示」と連動したミニ講座が5日間開催されました。ちがさき丸ごと博物館講座(基礎編)の修了生の同窓会である「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友の会」の市民ボランティアが、それぞれの好きなこと、得意分野についてお話ししました。テーマは『茅ヶ崎の地形』、『茅ヶ崎と自転車』、『茅ヶ崎今昔物語』、『えな塚(丹後局)』、『相模国準四国八十八か所』でした。茅ヶ崎ショッピングセンターにお買い物にいらした方もお立ち寄りいただくなど、5日間で延べ145名の方にご参加いただき大盛況のうちに終了しました。地元に着したテーマでありながら意外と知らない発見があったのではないのでしょうか。

ちがさき丸ごと博物館市民ボランティア特集号！



募集 ちがさき丸ごと博物館講座(基礎編)

平成29年度春期(5月~8月)受講生募集！

考古・歴史・自然・民俗などの視点から、住まう茅ヶ崎を一から学びませんか？



【日時】5月31日(水)から8月9日(水)までの毎週水曜日 10時~11時30分(全11回シリーズ)

【会場】文化資料館2階会議室ほか

【対象】茅ヶ崎市内在住、在勤、在学で、原則全11回受講できる方20名。

【申込】4月19日(水)から5月12日(金)までに、茅ヶ崎市教育委員会社会教育課 (0467-82-1111 代表) まで電話にて受付。先着順。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、「このまち」らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、茅ヶ崎を改めて知り、茅ヶ崎を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかけがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

編集後記

前号では、企画展「丸ごと101」の中間報告を行い、様々な茅ヶ崎を知る機会をご紹介。今号は、企画展を支える市民ボランティアをご紹介しました。今回お話を伺った方々、そして紙面の都合で残念ながら取り上げられない方々も含め、ちがさき丸ごと博物館に関わる人々自体が茅ヶ崎の都市資源・たからものとなんことを想いながら、さあ春の茅ヶ崎へいざ――。

期間限定！
丸博センターへようこそ！

▲企画展「丸ごと101」フィナーレ「丸博センター」において

企画展「丸ごと101-茅ヶ崎を知る101の機会一展」を終えて

平成28年11月25日(金)に開幕した企画展「丸ごと101-茅ヶ崎を知る101の機会一展」。101日間に茅ヶ崎の都市資源について知ることができる101の機会をご提案してきました。長丁場の企画展も平成29年3月5日(日)をもって無事閉幕しました。季刊誌第29号、第30号では、企画展の様子などをお伝えしてきました。今号では、企画展に関わった“人”に焦点をあて、運営メンバーやまち歩きでガイドデビューを果たした市民ボランティア、ちがさき丸ごと博物館を研究テーマに調査を行った大学院生などにお話を伺い、得意分野を生かして活動する“人”が織りなすちがさき丸ごと博物館をお届けいたします。

まる はく てい だん
～ 丸博鼎談 ～

ちがさき丸ごと博物館では、市民ボランティアのみなさんと行政の協働のもと、事業を進めています。企画展「丸ごと101」も市民ボランティアによる企画展実行委員会が中心となって企画・運営をしてきました。企画展開催中、「実際どんな人が運営メンバーとして活動しているのか」、よくそんなお声を耳にしました。



そこで今号では、運営メンバーの中からお二人にお集まりいただき社会教育課職員との季刊誌特別鼎談を開催。ちがさき丸ごと博物館の運営メンバーは一体どのような方々なのか大特集します！

ちがさき丸ごと博物館企画展実行委員会
 委員長 森井健太郎さん（写真中央）
 副委員長 加藤幹雄さん（写真左）
 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課 高橋知（写真右）

高橋 企画展「丸ごと101」、101日間という長期間にわたっての企画・運営お疲れ様でした。今日は季刊誌特別鼎談、よろしくお願いします。ではさっそくですが、そもそもちがさき丸ごとふるさと発見博物館（以下丸博）に関わるきっかけというのは何だったのでしょうか。

森井 私は茅ヶ崎で生まれ育ったものの、若い頃は茅ヶ崎がふるさとだという意識はありませんでした。結婚後しばらくして茅ヶ崎に戻ってみたら、昔の友人がいて、お互いの子どもが遊ぶようになって…そんなつながりがあるととても安心する場所だなあと。「ふるさと」ってあるんだなという気持ちを持った矢先、丸博事業の企画検討委員の市民公募を見つけて、茅ヶ崎にもふるさと意識醸成の活動があるんだということで応募したことがきっかけです。

加藤 私は生まれも育ちも茅ヶ崎ではなく、仕事の都合で茅ヶ崎に住み始め、かれこれ40年以上経ちました。現役時代は茅ヶ崎へ寝に帰るだけでした。退職後、もともと歴史やまちに興味があったこともあり、丸博ガイド養成講座の募集を見つけた妻が応募して受講したのがきっかけです。丸博事業の指針に書かれている理念も「おもしろい！」と感じて、どんどんはまっていきました。妻のおかげで充実した毎日です。

高橋 それぞれ丸博との出会いがあるわけですが、丸博の運営や活動には、どういう想いで参加しているのでしょうか。

森井 私の世代だと、家庭と仕事だけではなく、サードプレイス（※自宅でも職場でもない心地のよい第3の居場所）が必要と言われていて、私自身これという趣味がない中で、丸博の活動が、ある種第3の居場所になっているのかなと思います。いろんな人と意見を交わしたり、汗をかいたりして何かプロジェクトを進めていくことが、一番のベースである家庭と自分の生き様といえる仕事だけでなく、自分の中では大きな存

在になっているなと思います。現役で仕事をしているとなかなか日中に時間がとれないのが口惜しいところもあります。

加藤 思い返してみると、現役時代、会社では利潤の追求で、この丸博の活動は、それとは全く違います。改めて問われて、私は計画して、実行していくことが純粋に好きで、その部分は会社でも丸博の活動でも同じなのかなと思います。大変なこともあります、充実した時間を過ごしているので苦だと思ったことはありません。活動自体が勉強になり、関わる人の範囲も広がり、若い人の意見も聞けて、なかなか得難い人脈も増えました。だから丸博に関わることができていることに感謝しています。“ボランティアしてあげている”という感覚は全くなくて、ボランティア活動を、自分のために思いっきりたのしんでいます。

森井 退職後に、現役時代に蓄えてきた知識やスキルを地域のことに役立てていくというのは素晴らしいことですね。今のお話を聞いていて、ベッドタウンという茅ヶ崎の特性上、ある種東京をつくりあげてきた人が茅ヶ崎に住んでいる、茅ヶ崎は人材の豊富さが強みだと思いました。

高橋 まだまだお聞きしたいことはたくさんありますが、最後に、新年度を迎え、これからちがさき丸ごと博物館に期待すること、力を入れて活動していきたいことは何でしょうか。

森井 丸博に関わった当初から私の軸となっている子ども対象の活動を盛り上げたいですね。平成28年度は、子ども向けの活動を通して多くの方との繋がりもできたので、世代の縦のラインを築くことに力を入れたいと思います。

加藤 私は逆に中高年の方が、丸博の活動にもっと気軽に参加してたのしめる、そういう場所をつくっていきたくと思っています。

高橋 今日はどうもありがとうございました！

～ 丸博インタビュー ～

企画展「丸ごと101」開催中、多くの方がちがさき丸ごと博物館に参画。今回はその中から、ちがさき丸ごと博物館を研究テーマにとりあげた大学院生や、まち歩きでガイドデビューを果たした方などから、企画展を終えて、その感想をお聞きしました！



横浜国立大学大学院 高橋絵里さん

今回の企画展では、市民の皆様様に調査をさせていただき、茅ヶ崎の地域らしさ、魅力を探りました。ご協力いただき、本当にありがとうございました！ここで書き切れることはそのわずかですが、私が肌で感じたことは、茅ヶ崎は、「人」が大きな魅力で、一番のだからものだという事です。小さな子どもも、大人も、おじいちゃんおばあちゃんも、幅広い年代の方が、茅ヶ崎に暮らし、茅ヶ崎で働き、それぞれの方々がそれぞれにイキイキしています。丸博の活動にもたくさんの方が関わっています。小さなお店、公園、公民館、ショッピングセンターなど地域の人々がそれぞれの魅力を持っていて、それらが繋がり、地域に素敵な風景をたくさん作っていることをとても感じました。これからも、人が活躍し、繋いでいける町となるよう、皆様と丸博の活動を、応援していきたいと思っています！

故郷の茅ヶ崎へ戻って既に17年が経過した、いわゆる「団塊の世代」と真ん中の人間です。丸ごと博物館との出会いは、「住んでいるのに茅ヶ崎のことをあまり知らないなあ」と思い受講した丸ごと博物館講座（基礎編）でした。その後丸ごと博物館ガイド研修の受講を決意。「茅ヶ崎の東海道（西編）」をテーマに学習を重ね、昨年12月にガイドデビューを果たしました。ガイド本番に向けて勉強する毎日が続きましたが、お陰でそれなりに詳しくなれたと自負しています。企画展「丸ごと101」開催中、市内のまち歩きや各種講演会に参加しました。イベントに参加するたびに、乾いたスポンジに新たな知識がどんどん吸収されるような感覚を覚えました。現在はガイド研修「茅ヶ崎の東海道（東編）」で、5月のガイド本番に向けて勉強の真っ最中です！



丸博友の会 藤田修一さん



今回、丸博に関わったことで、私が知らなかった茅ヶ崎を改めて知ることができたと同時に、自分の街をもっと知りたい！多くの人に茅ヶ崎の良さを知ってほしい！というとてもアクティブな方々にお会いすることができました。若者には分からないのではと初めは思いましたが、関わるうちに若者世代こそこの企画に密に関わるべきだなと思いました。（安達さん）私は大山道のまち歩きガイドをしたのですが、ちがさき丸ごと博物館のボランティアからたくさん教えていただき、たのしく茅ヶ崎について知ることができて良かったです。（村上さん）

文教大学 安達久美子さん（左）
 村上芽衣さん（右）

（わくわく丸博こども広場に参加して）
 やってみておもしろかったのは、丸ごとのマークのパズルとかっぱのおりがみ。かっぱどっくのテレビは、絵本とちがって、かっぱが女の子でおもしろかったです。ちがさきかるたは、かてなくてくやしかったから、れんしゅうして、つぎこそはぜったいかちます！



ダイジローくん